

2020 年 9 月 28 日

通貨ニュース

メキシコ: 中央銀行は利下げペースを減速

メキシコ中央銀行(Banxico)は 9 月 24 日、金融政策決定会合を開催し、政策金利(翌日物金利)を従来の 4.50%から 4.25%へと 25bp 引き下げることを選定した。利下げ幅は従来の 50bp から縮小したもの、2019 年 8 月以降で 11 会合連続の利下げとなり、利下げ幅は計 400bp となった(図表 1)。COVID-19 の感染拡大(パンデミック)による影響を念頭に、引き続き根強い景気下振れリスクに対応する。

声明文(英語版)を見る限り、Banxico の海外景気や金融市場に対する認識は改善方向にあるようだ。前回会合時の声明文で目立った「不透明感(uncertainty)」という記述はやや減少している。もっとも、以下の記述にもあるように警戒感が消えたわけではない。

The world economy and international financial markets are subject to several risks, among which are those associated with the pandemic.

国内景気についても同様だ。以下の記述にあるように、6 月や 7 月に経済活動の持ち直しが始まったものの、不透明感や下方リスクが根強く、経済の緩みは相応に大きくなると述べている。経済の緩みについては、「より大きくなる(greater)」としていた前回会合時より認識がやや改善した感はあるものの、依然として下振れ警戒感が滲む。こうした警戒感が追加利下げを促したといえる。

economic activity in Mexico began to recover in June and July, although an environment of uncertainty and downward risks prevails. Ample slack conditions are expected throughout the time frame in which monetary policy operates.

他方、利下げのペース自体は減速した。3 月以降は 5 会合連続で 50bp の利下げを繰り返してきたが、今回は 25bp にとどめた。この点に関しては、インフレ率が足許で Banxico の目標レンジ(前年比+2%~+4%)を上抜けつつあることが影響したとみられる。8 月の消費者物価(CPI)は、ヘッドラインベースで前年比+4.05%、コアベースで同+3.97%となった。

また、政策金利がインフレ率にかなり接近していることも、小刻みな利下げ判断を促したとみられる。実際、今回の声明文には一部文言(下線部)が追加される格好で、利下げ余地はあとわずかであるという認識が Banxico 内で共有されていることが示唆された。

Based on the foreseen scenarios for inflation and considering the room for maneuver, although narrow, that on balance these provide to monetary policy, with the presence of all members, Banco de México's Governing Board decided unanimously to lower the target for the overnight interbank interest rate by 25 basis points to a level of 4.25%.

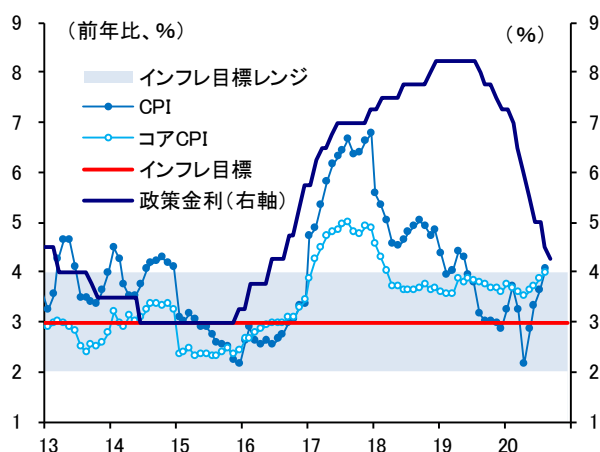
市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

なお、声明文では以下の記述が続き、今後の政策判断は、インフレやパンデミックの動向次第という点はこれまでと変わらない。ただ、前回会合時は下線部が「緩和余地 (the available room for maneuver)」とされていた。この文言の変更をどう捉えるべきか。前段の流れからすれば、追加緩和に対するより慎重な姿勢が込められている可能性はあろう。Banxico は中長期的にはインフレ率が3%台で安定推移するとみており、その通りであれば利下げ余地は残るといえるが、短期的には利下げは見送られる可能性が高まったと考えておきたい。

Monetary policy implementation will depend on the evolution of the factors that have an incidence on the outlook for inflation and its expectations, including the effects that the pandemic might have on both of them.

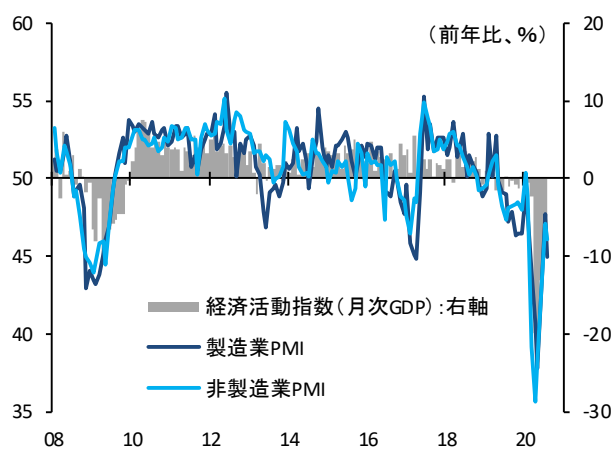
Banxico による金融緩和にも限界がうかがわれつつあることが、ロペス・オブラドール政権に追加経済対策を促すきっかけになるか注目したい。ポスト・パンデミックの景気回復を支える経済対策が見当たらないという状況に改善がみられれば、景気や為替相場の見通しに新たな手掛かり材料が提供されるだろう。

図表 1: 政策金利とインフレ率



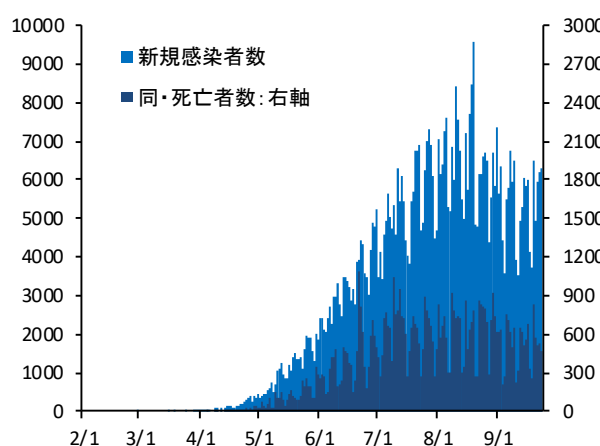
出所: メキシコ中央銀行、地理統計院、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 月次 GDP 成長率と企業マインド



出所: メキシコ地理統計院、CEIC、みずほ銀行

図表 3: COVID-19 の新たな感染者数と死亡者数(人)



(注) 2020 年 9 月 24 日時点
出所: WHO、CEIC、みずほ銀行

図表 4: Banxico による CPI 見通し(中央値)サーベイ



出所: メキシコ中央銀行、ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。